

記入内容の確認

宇宙開発戦略推進事務局

この内容でよろしければ、[以上の内容で送信する]ボタンを押してください。

1. 内容入力

2. 確認

3. 完了

氏名	一般社団法人宇宙旅客輸送推進協議会
メールアドレス	info@spaceliner.jp
ご意見	<p>8頁26行～9頁4行</p> <p>『特に、新型の基幹ロケット(中略)宇宙輸送システムの国際的競争力を向上し続けなければならない。』</p> <p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none">・ispace、SpaceX等の民間事業者が月・火星等への着陸、有人輸送を民間主体で行っているという現状を踏まえると、現行の案の記載では、依然として国主導の宇宙開発のままのように見受けられるため、民間主導という要素を追記すべき。・既に現在、月・火星等への着陸及び有人輸送について、米中はもちろんのこと、他国も開発に着手している等の動きがあり、国内でも既に2020年代にこれらの実現を標榜する事業者もいる中で、「20年を見据える」という表現は現状に即していない。・各国が新たな宇宙輸送に乗り出している中で、基幹ロケットの失敗も含め、我が国の宇宙輸送は期待感はあるものの危機的な状況にある、ということを明記すべき。 <p>上述3点を踏まえ、下記の通り修正していただきたい。</p> <p>—修正案—</p> <p>『(前略)特に、新型の基幹ロケットであるH3ロケットに対しては、国内外の衛星事業者から多くの期待が寄せられている。そうした中、我が国では、基幹ロケットに関し、2022年10月にイプシロンロケット6号機、また、2023年3月にH3ロケット試験機1号機の打ち上げに失敗した。後述する国際状況に対応できるようにするためには、両基幹ロケットの失敗に対し、直接的要因のみならず、背後要</p>

因を含めた原因の究明とその対策に透明性をもって取り組み、失敗を乗り越え、それを糧とし、我が国として打ち上げ成功の実績を着実に積み重ねることが不可欠である。

一方で、世界的には、米国や中国において月等への大型貨物輸送に対応した宇宙輸送システムの開発が行われているとともに、これまで米国、中国、ロシアのみが運用を行ってきた有人輸送に対応した宇宙輸送システムについては、新たに欧州やインドにおいて開発を着手する動きがある。加えて、これら月等への輸送や有人輸送については、民間事業者の積極的かつ主体的な事業への関与が既に構築されつつある状況でもある。そのような激変する国際的な宇宙輸送を巡る環境の中で、我が国の宇宙活動が更に広がりを見せ、その自立性の確保に向けては、月・火星等への着陸機や補給機、有人輸送などの新たな宇宙輸送が必要であり、スピード感を持って、宇宙輸送システムの国際的競争力を向上し続けなければならない。』

よろしければ、次にもご記入ください。

都道府県	東京都
電話番号	
年齢	歳
性別	
職業	

◀ 修正

以上の内容で送信する ▶



〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1
電話番号 03-5253-2111(大代表)
内閣府法人番号 2000012010019

© Cabinet Office, Government of Japan